

Gibson Acoustic Guitars

ギブソン・アコースティック・ギターオーナーになるという体験。それは、その人生における幾つかの“初体験”と同様に、とても大きな出来事である。美しい木目、手にした時の感触、匂い、いろいろな音符やコードを弾き鳴らした時の音。その時そのギターを取り囲む環境までも、あなたはきっといつまでも忘れることなく覚えているに違いない。そして、あなた自身が1900年代初めから続くギブソン・アコースティック・プレイヤーの一員として名を列ねたという興奮に気付くとき、あなたは正に“ギブソナイト”となっているはずだ。

アコースティック音楽の再生と数多くのブランドの普及により、アコースティックギターを手軽に入手出来るようになった反面、芸術と呼ぶに相応しい土質な楽器作りを見極める様々な要素があいまいになってきている。その中で最も重要な点は、それが“ハンドメイド”であるということ、そして、そのようにして作られた楽器が奏でる音楽と、その楽器を手にしたプレイヤーとが、どのような深い関わりでつながっているかということにある。

実際のところ、どのようなギターであっても組み立て工程で、ある程度は“手”が加えられている。しかしながら、アコースティックギターの場合、どれだけ人間の手でもって作り上げられたかによって、本当の“手作りギター”と呼ぶか、ただ単に、“手で組み立てられたギター”と呼ぶか、大きな違いが生まれる。そして、伝説のビルダーやプレイヤーは、“ハンドメイド”で個々のデザインを持った楽器のみが、本当に素晴らしい音を出し得ることを知っている。

本当に上質なギターは、弾き手のどのようなニュアンスにも応えてくれると同時に、聴き手にも素晴らしい体験をさせてくれるものである。こうした関係こそが1900年代初めから、多くの音楽好きたちにギブソンが称賛され、彼ら自身を“ギブソナイト”“ギブソニアン”と呼ばせたのである。ギブソンが音楽、芸術、文化の時代の中で、常に“アーティストのお気に入り”であり続けてきたことは決して偶然ではない。今日では、ギブソンに対する情熱的な忠誠心は社会の奥底にまで届いており、それは株ブローカーからミュージシャン、ハリウッドスターから一般の家庭にまで浸透している。これらのすべての真実や理由を背景にして、ギブソン・アコースティックの“マスタービルト”という伝統は、1894年のオービル・ギブソン以来、たぐさんのギブソン・ビルダー達の手によって現代に引き継がれているのだ。



Which Gibson Acoustic is Right for You?



Super Jumbo Body

ヴォーカルのバックで力強くコードを響かせたいという方の理想のスタイル。豊かなベース音域と透き通るようなハイトーンを持ち合わせ、迫力あるサウンドを提供する優れ者。カントリーからロックまで、あらゆるジャンルの音楽に対応し、これまで最も多くのアーティストによって愛されてきた。



Round Shoulder Body

“Workhorse～働き馬～”としてその名を馳せてきたこのラインナップは、アンサンブル・パフォーマンスの理想的なスタイル。力強く歯切れの良い低音から、温かみのある味わい深い中音域まで、びっくりするほどダイナミックなレンジを持っている。ブルース、フォーク、そしてブルグラスに至るまで幅広い演奏を実現でき、ボディの小ささに似合わず、ステージ上ではもの凄いくわいカッティングパワーを見せ付ける。



Square Shoulder Body

その美しさと高品質は市場に出回っているどのスクエア・ショルダーにも決して負けない。力強さ、荒っぽさ、ソフトさ、そしてスイートさ、幅広いサウンドで個性を発揮。コードを弾くだけの簡単な伴奏から、複雑なソロまで、どんな演奏でもしっくりいく。ギブソン・スクエア・ショルダーは職人技能がたっぷり注ぎ込まれた芸術品である。



J-180 Jumbo Body

スーパー・ジャンボの良いところをそのまま詰め込んだ、一回り小さいボディを持つスタイル。抜群のバランスとプレイアビリティを実現し、リズム・ギター、スタジオ・レコーディング、そしてライブ・パフォーマンスなどで活躍する。老若男女を問わず誰にでもピッタリのサイズ。



Small Body

そのユニークでアーティストティックなルックスで人気を誇るスモール・ボディ。響き渡る中音域、サウンド・バランスの良い高低音域を持ち合わせ、ブルースやフィンガー・ピッキング・プレイヤーのトップチョイス。持ちやすさと気軽さが売りの小型ボディは自宅、スタジオ、ステージなど、どこでも大活躍することでしょう。